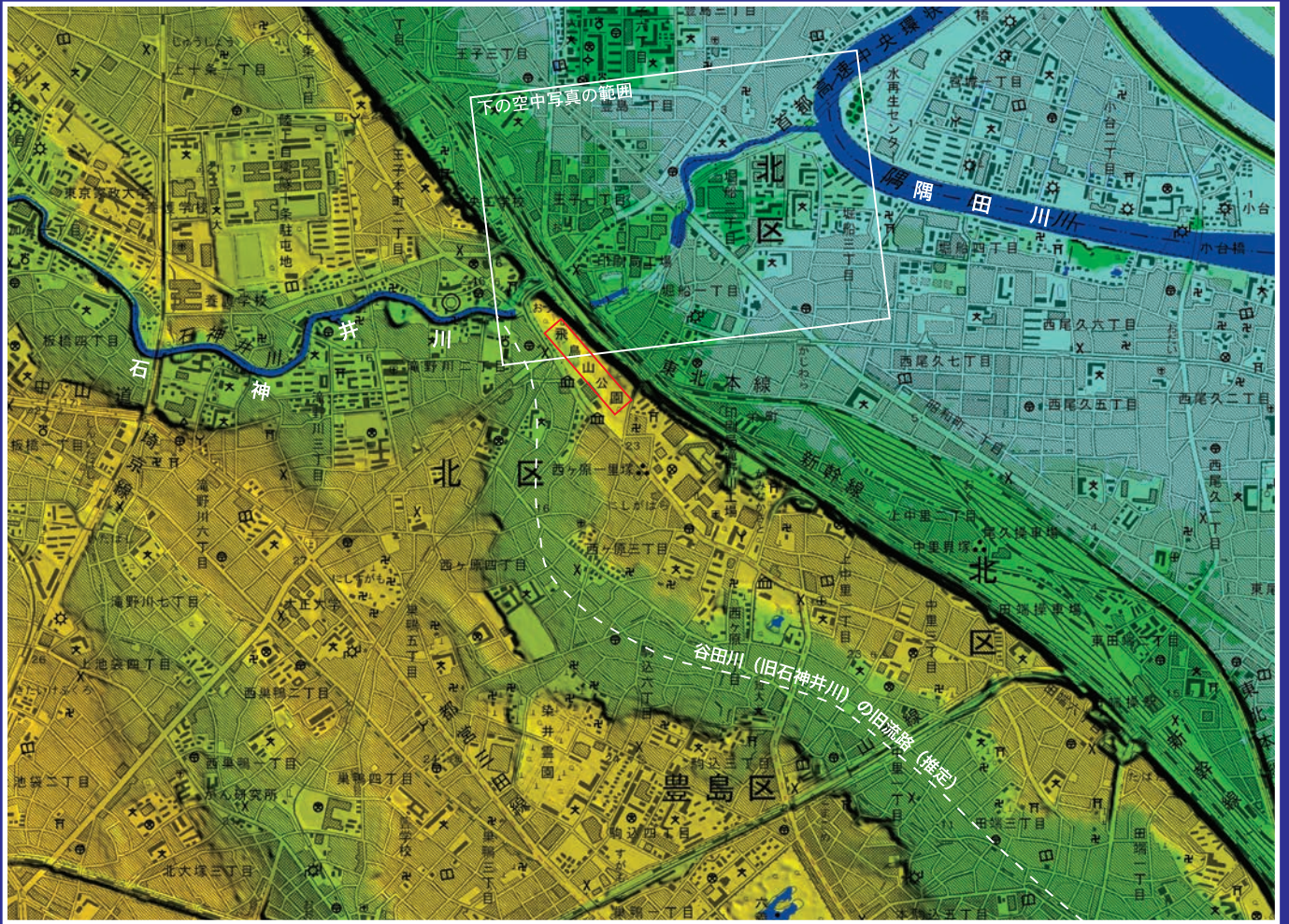


7. 武蔵野台地の中でつながる石神井川と谷田川の河谷地形



石神井川（王子付近） 昭和49年撮影 約1:12,500

かつては一つの川でした

石神井川は小平市の窪地を水源にして、武蔵野台地を東に流れ、台地東端の飛鳥山の北で台地を切って低地に下り、隅田川に合流する川です。現在は、台地を切る部分で飛鳥山の下をトンネルで通過するように改修され、旧河道の溪谷は音無親水公園になっています。

谷田川は飛鳥山の南方を源に台地を蛇行し、上野の不忍池付近を通過して隅田川に合流する河川でした。現在、表流河川はありません。

石神井川と谷田川は谷底の幅（200～300m）や台地面との比高差（5～8m）などがほぼ同じで、かつては一続きの川でした。谷田川の流路は旧石神井川とも呼びます。石神井川が流れる方向を変えた原因は、河川自身の営力によるものなのか、あるいは人為的な河道の改変なのかは興味深いものです。河川自身の営力によるものであれば、洪水の時に河谷壁を破って低地に下ったのか、あるいは、低地の方から台地に向かって小さく力の強い河川が伸びてきて石神井川の上流を奪い取ったのかも知れません。谷壁を人為的に削ったのでしたら、旧石神井川の出口、上野付近の洪水を防ぐためだったのでしょうか。あるいは飛鳥山の下の低地に灌漑水路が必要だったのかもしれません。